

2026年5月8日

税収の増勢は衰えず

～25年度は昨年末政府見込みの80.7兆円を更に上振れへ～

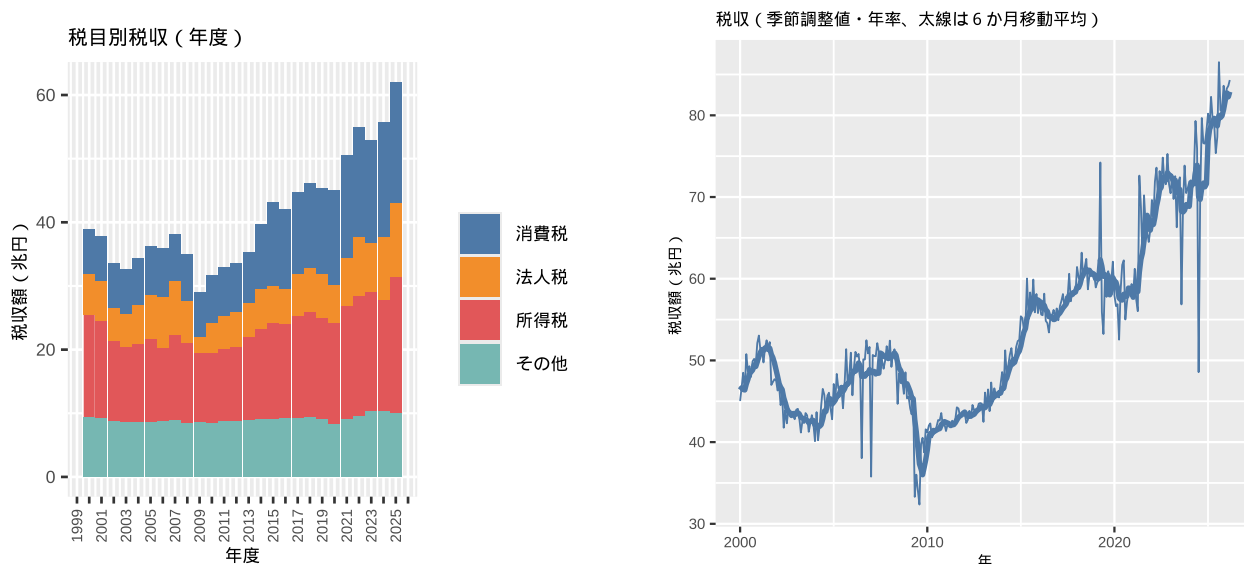
経済調査部 主席エコノミスト 星野 卓也

(TEL: 050-5474-7497)

25年度税収は政府見込み値を上振れへ

税収が依然堅調だ。財務省から公表された2026年3月末時点の累計税収（2025年度分）は61.8兆円（前年同期比+11.6%、前年同期差+6.4兆円）となった。税目別にみると所得税（前年同期比+22.1%）、法人税（同+18.8%）、消費税（同+3.1%）と主幹3税がいずれも増加。所得税は24年度定額減税の反動増の影響が大きいものの、トランプ関税の中でも法人税が依然堅調であった点が目立つ。また、相続税も前年同期比+10.3%と増加、資産価格の上昇に伴って課税額が増加していることもうかがえる。なお、季節調整値のトレンド（6ヶ月移動平均）でみた直近値は82.9兆円であり、80兆円を明確に上回っている。

図表. 税収の推移（左図：4月～翌3月末の累計値。右図：季節調整値）



（注）季節調整は筆者。

（出所）財務省より第一ライフ資産運用経済研究所が作成。

25年度税収は次の26年4月・5月の税収をもって確定（7月に決算概要として公表される）するが、現時点での累計値の前年対比増加額+6.4兆円を昨年度決算税収75.2兆円に加えるだけでも81.7兆円となり、年末時点の25年度政府税収見込み（80.7兆円）を上回る。順当にいけば4・5月税収も前年を上回る形で、25年度の税収は82～83兆円台での着地が予想される。

また、現時点での26年度の政府税収見込み（当初予算）は83.7兆円である。イラン情勢の行方に左右される部分も大きいですが、26年度の税収もここから上振れしていく可能性が高そうだ。

以上